

ISAR2011（建設の自動化とロボテックスに関する国際シンポジウム）参加（平成 23 年 6 月）

毎年各国で持ち回りで開催されている建設機械を中心テーマとする国際会議である。前々回は米国で、前回はスロバキアにて開催された。JACIC としては初めての参加である。今回は韓国開催ということで、アジアからの参加が多く全体で 300 名超の参加があった。日本からは約 30 名。土木研究所および大林組からの参加もあった。

実質的に会議は 6 月 30 日・7 月 1 日の 2 日間で、朝一番は基調講演である。オランダの先生が「世界的に見て建設業はまだ大きな産業であり、その産業にロボテックスを導入すれば社会的に大きな影響があるのだ」と強調された。また釜山湾の島をつなぐ沈埋トンネルの事例が紹介された。その後、6 つのグループに分かれての並行セッションが行われた。論文提出者の秋山・海津・河内は、それぞれ自分の属するセッションにて 15 分のプレゼンテーションを行った。7 月 1 日朝の基調講演では大阪大学の新井先生から日本のロボット開発の現状を聞いた。最終日の 7 月 2 日はテクニカル・ツアーと題して、仁川空港近くの新開発都市（コンパクトスマートシティ）の計画展示を見学した。



以上